

叶文

— 開運 —

京からかみ 

株式会社 丸二 TEL (075)361-1321
<http://www.maruni-kyoto.co.jp>
e-mail : karakami@maruni-kyoto.co.jp

今も残る数々の文様は、その時代を生きる人々の祈りや願いが託され、少しずつ変化してきました。文様には、それぞれ意味があります。人々の願いや思いを叶える伝統文様の木製スタンプ。貴方の願いを叶える文様はどれですか？ 貴方の想いをスタンプに託して、大切な人へお伝え下さい。自身はもちろん、大切な人へも運気を開き、幸運を招き入れることでしょう。

- ・ 扇文 平安時代後期に日本独自に完成された扇は、その形がコウモリに似ている事から蝙蝠（かわほり）とも呼ばれ、“福”に繋がるという意味合いと同時に、末広りの形からも縁起の良いものとされています。
- ・ 打出の小槌文 一寸法師・舌切り雀などの民話にも登場し、振れば振る程欲しいものが手に入り、望みが叶うという小槌。また小槌は物を打つことから、「敵を討つ」に通じて武運長久の御利益も担がれます。幸運を呼び寄せる文様として慶びの場でよく用いられます。
- ・ 昨鳥文 鳳凰・オウム・尾長鳥が花枝や宝物など吉祥物をくわえている様子を総じて昨鳥文・花喰鳥文と呼びます。ササン朝ペルシャにルーツがありシルクロードを経て日本に伝わり、正倉院宝物の文様の一つでもあります。合格祈願・幸運を呼ぶ文様です。
- ・ 斧琴菊文 斧は上方の方言で「よき」と言い小型の斧を表わします。琴は琴柱を文様化し、菊は葉をあしらって丸味をつけ、これら単純な絵柄を三つ並べて「よきことをきく」と語呂合わせで縁起が担がれた文様です。江戸後期の歌舞伎役者の三代目、尾上菊五郎が好んだ文様です。
- ・ 鯉文 鯉は、頭から尾までの鱗が 36 枚あり、滝を登り切れれば 81 枚に増えるとされ、「六々変じて九々鯉になる」といった中国古事にも象徴される出世魚です。そのため鯉は、昔から出世・昇進の願いが込められました。この波間に跳ね上がる鯉の姿は、荒磯文とも呼ばれています。
- ・ 竹文 まっすぐに勢いよく伸び、清々しい常緑樹の竹は神聖な植物とされ、七夕・門松や多くの祭り事に使われています。生長が早く生命力旺盛なことから繁栄のシンボルとされ、吉祥文様として数多く用いられています。破竹の勢いで進みたい時は、竹文です。

*お取り扱いについて

ご使用前に、スタンプ面を濡れタオル等で少し湿らせてから御使用下さい。インクの馴染みが良くなります。水性インクを使用しています。使用後は早めに布等で拭き取り水洗い下さい。木製スタンプは欠け易く、硬いブラシやネットのスポンジ等で擦ったりすると破損の原因となります。又、お子様が口に入れない様に気を付けて保管して下さい。その他ご不明な点がございましたら、販売店又は当社までお問い合わせ下さい。

素材 / 朴の木 (ウレタン塗装)